

## Q5.なぜ献血された血液を検査するの？

血液センターでは、すべての献血者に肝機能（ALT・AST・ $\gamma$ -GTP）やコレステロール値などの生化学検査を行っています。

また、400ml献血、成分献血をした方には、血球計数検査を行っています。それによって、赤血球数やヘモグロビンの量から貧血の有無やその原因などを判断する手がかりが得られます。

このような血液検査により、献血者が体の健康状態の把握をすることができます。

**A** さらに、献血された血液は、患者さんのために安全な輸血が行われるよう、血液型をはじめ厳しい検査が行われています。肝炎やエイズなどのウイルス感染の有無などを最新の検査である核酸増幅検査（NAT）等の各種検査を行うことにより、より安全性の高い血液を確保し、血液製剤として医療機関に供給しています。

しかし、肝炎やエイズの感染初期には、最新の検査によっても感染を発見することはできないことから、検査目的の献血は、患者さんに感染させてしまうかもしれない大変危険な行為となります。

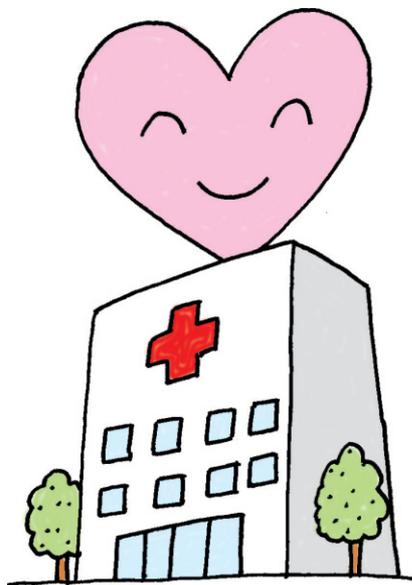
もしも、肝炎やエイズに感染した可能性がある、あるいはその心配がある場合には、専門の医療機関または最寄りの保健所にご相談ください。

## Q6.献血の結果、病気が発見されて不利益を受けることはないのでしょうか？

血液センターでは、血液の安全性を確保し、献血者の健康管理に役立つよういろいろな検査を行っており、その結果は、外部に漏れることなく、献血者本人にのみお知らせしています。また、検査項目によっては結果を知らせてほしくない場合にはお知らせしなくてもできますが、気が付かなかった病気が献血時の検査で見つかり、早く適切な治療を受けることにより大事に至らなくてよるこぼれたケースがたくさんあります。



## Q7. 無償で献血された血液に、なぜ値段をつけて病院などに売られるのですか？



血液そのものには値段がついているわけではありませんが、献血していただいた血液は患者さんに安全な輸血をするために、血液型かん えん ぼい どくや肝炎、梅毒、エイズなど各種の検査を実施していますので、検査の費用が必要になります。また、献血していただくために、血液センターや献血バス、病院への血液を届ける緊急車など施設や車両の整備、製剤の調製などの費用、さらに職員の人件費などがかかります。

# A

これらの費用をまかなうため、血液製剤には国が定める値段やっ か（薬価）がつけられています。病院では血液製剤を使用する時に血液センターにその費用やっ か（薬価）を支払います。病院に対しては、患者さんが加入している健康保険や国民健康保険などからの給付と、患者さん自身の一部負担金により支払われます。

## Q8. GVHDとは何ですか？

GVHD (Graft Versus Host Disease: いしよくへんたいしゆくしゅびょう 移植片対宿主病) は、輸血した血液の細胞いしよくへん (移植片) が患者さんしゆくしゅ (宿主) の体内で生着・増殖し、その細胞が患者さんの細胞を「異物」として攻撃、傷害する病気です。今のところ治療法がないために、発症すると症状が重くなることが多くたいへん厄介なものです。

# A

このGVHDの原因となるのは、輸血された血液 (移植片) に含まれる細胞障害性Tリンパ球であることがわかっています。

そこで、このGVHDを予防するために、輸血用血液に放射線しやうしやを照射し、リンパ球そうしよくの増殖機能を壊してから輸血することが有効で放射線照射の導入後、平成12年からGVHDの確定例の報告はありません。